

建議案 2 ツ

第73議會ニ於テ衆議院ニ提出サル

國立太陽觀測所ヲ設置スベシ

國立黃道光觀測所ヲ設置スベシ

昭和十三年三月九日提出

建議第一九九號

國立太陽觀測所設置ニ關スル建議案

右成規ニ據リ提出候也

昭和十三年三月九日

提出者 森 田 福 市

賛成者

松 山 常次郎	服 部 岩 吉	作 田 高太郎	木 本 主一郎	松 尾 孝 之
猪野毛 利 榮	瀧澤 七 郎	工 藤 十三雄	坪 山 德 彌	大 野 伴 睦
小 高 長三郎	高 橋 圓三郎	東 郷 實	小 平 重 吉	庄 司 一 郎
箸 本 太 吉	太 田 理 一	世 耕 弘 一	高 畠 龜太郎	泉 國 三 郎
田 中 好	野 口 喜 一	依 光 好 秋	鶴 惣 市	田 中 源三郎
池田七郎兵衛	大 内 竹之助	伊 東 岩 男	中 野 治 介	倉 成 庄八郎
東 條 貞	福 井 甚 三			

國立太陽觀測所設置ニ關スル建議

現今太陽ノ觀測及研究ハ列國競ウテ之ヲ行フ機運ニアリ學術上及其ノ應用上極メテ緊要ノ事ニ屬ス然ルニ東洋方面ニ於テ此ノ種ノ研究甚タ振ハサル今日我カ國ニ於テ國立觀測所ヲ設置シ之カ研究ヲ推進スルコトハ學界ノ要求ニ應スル所以ニシテ科學報國ノ國民の希求ヲ充足スルモノト認ム仍テ政府ハ速ニ之カ實現ヲ期スル爲適當ノ處置ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

國立太陽觀測所設置ニ關スル建議案理由書

太陽ハ我ガ地球世界ニ無限ノ光ト熱トヲ與ヘ有ユル生物界ヤ無生物界ノ「エネルギー」ノ源泉デアルコトハ一般人士ノ認メル所デアルガ更ニ最近學者ノ研究

ニ依レバ太陽ハ光ト熱トノ外ニ尙ホ強烈ナル電流ト各種各様ノ電波トヲ四方八方ニ放射シテ居ルコトガ明白トナリ此等ノ様々ナル活動力ガ太陽系統全體ノ死活ノ運命ヲ支配シテ居ルノデアツテ殊ニ我ガ地球ハ太陽ヲ距ル僅々三千八百萬里(一億五千萬杆)ノ距離ニ在ル爲彼我ノ關係ハ極メテ密接デアリ太陽面上ノ刻々ノ變化變動ハ詳細ニ亘ツテ其ノ實狀ヲ觀察シ又其ノ地球ヘノ影響ヲ研究調査スルコトガ出來ル

太陽面ニ現ハレル諸現象中最モ重要明確ナルモノハ彼ノ黒點デアル黒點ハ二千年前既ニ東洋ニ於テ發見サレタ奇現象デアルガ此ノ日々刻々ノ變化ヤ蔭顯等ヲ詳細ニ觀察シ始メタノハ僅々百年以内ノ事デアル初期ノ學者ハ太陽黒點ノ現ハレヲ太陽ノ消滅ノ前兆デアルト思ツタケレド近年ノ研究ニ依レバ黒點ノ個々ハ太陽カラ發スル光、熱、電氣等ノ活動的中心トモ言フベキモノデアツテ從ツテ太陽面ニ見エル黒點ノ増減ハ其ノ儘太陽ヨリ放射スル「エネルギー」ノ大小ヲ表ハスモノト言ツテ好イ黒點ハ日夜絶エズ新陳交代スルモノデアツテ個々ノ形狀モ大サモ位置モ光輝モ一定シナイ黒點ノ數モ亦絶エズ變リツツアル此等ノ變化變動ハ大約十一年ヲ週期トシ近年ニ於テ黒點ノ活動ハ一九〇五年、一九一六年、一九二七年一二八年等ノ各年ガ最大デアツタ之ヨリ推シテ世界ノ學界ハ次期ノ黒點活動ノ最大期ヲ一九三九年頃ト期待シテキル併シナガラ黒點ノ盛衰ハ決シテ前記十一箇年ノ週期中ニ圓滑ナル變化ヲ現ハスモノデハナク各年、各月、各日ノ内ニモ大小ノ變動ガ常ニ行ハレルモノデアツテ觀測研究者ハ日夜絶エズ世界的ノ連絡ヲ保チツツ太陽面ノ間斷ナキ觀察ノ必要ヲ感ジテ居ル

今カラ四五十年前迄ハ我ガ地球ニ及ボス太陽黒點ノ影響ハ磁針ノ變化ト「オーロラ」ノ如キ神祕的光輝トニ現ハレルノミト思ハレテ居タ然ルニ近年諸種ノ學術ノ進歩ト共ニ黒點ノ影響ハ地球上ノ氣象ヤ電磁氣關係ノ多方面ニ於テ認メラレルヤウニナリ多雨、乾天、饑饉、極暑、極寒、颱風等ノ異常ナル現象ハ言フニ及バズ海流、風向、氣溫、氣壓、濕度等ノ氣象上ノ根本的諸變動ヤ雷電、地磁氣、空中電氣、地電流、黃道光等ノ宇宙の現象並電波ノ變動ニ因ル無線電信、無線電話(ラヂオモ含ム)ノ障害及時ニハ有線電信、有線電話等ノ通信等ニ至ルマデ大小ノ差コソアレ今日殆ド有ユル天地現象ガ一トシテ太陽黒點ノ影響ヲ受ケナイモノハナイト判斷サレル迄ニ至ツテ居ル太陽ノ光輝ヤ熱量等モ黒

點ノ増減ト共ニ或ル複雑ナル變化ヲ示シテ居ルノデアツテ米國ノ或ル學者(C. C. アボット等)ハ是等ノ變化ヲ精密ニ研究調査シタ結果之ヲ應用シテ長期ノ天氣豫報ニ或ル程度ノ成功ヲ齎ラシテ居ル有様デアル。

我が日本帝國ハ其ノ地位ト地勢上氣象ヤ地學上ニ特ニ異常ナル變化變動ガ夥シク從ツテ各種ノ災害モ年々吾人ガ經驗スル所デアルガ今日マデ是等ノ災害防止ノ研究等ハ我が國ニ於テ甚ダ姑息ナルモノニ過ギナカツタ醜ツテ思フニ地球ヲ全體トシテ支配スルモノハ偉大ナル太陽ノ活動力ナルコト今ヤ學俗一般ノ認ムル所デアルカラ從ツテ有ユル災害ノ根源モ太陽ト其ノ黑點現象トニ求メナケレバナラナイコトハ當然デアル此ノ見地カラ見テ我が國ニ太陽研究ヲ専門トスル近代の觀測所ノ必要ナルコトハ今更言フマデモナイ尤モ現今我が國內ニ於テ太陽ノ研究ヲ實施シテ居ル所ハ東京、京都ノ兩天文臺其ノ他數個所ヲ數ヘルコトガ出來ル然シ是等ハ皆小規模デアツタリ天氣ノ惡イ爲ニ妨ゲラレタリ世界各國トノ觀測上ノ連絡ガ十分デナカツタリ又太陽専門ノ研究所デナカツタリ其ノ他種々ノ事情ノ爲ニ現代ノ學術的理想カラ可ナリ遠イコトハ遺憾デアル今全世界ヲ見渡スニ地球上ノ海陸ノ分布ガ一樣デナイ如ク太陽觀測所ノ分布モ決シテ平均一樣ノモノトハ言ヒ得ナイ比較的多クノ觀測所ガ密集シテ居ルノハ歐洲、北米、南阿等デアルガ我が東洋方面ハ極メテ觀測所ニ乏シイ現状デアル然ルニ地球ハ毎日一轉スルノデアルカラ歐米邊リデ熱心ナ觀測者達ガ如何ニ勉勵シテ研究ニ從事シテ居テモ東洋方面ノ觀測所ガ不十分デアル限り一日二十四時間ヲ通ジテ太陽ノ急激ナ變化運動ヲ連續的ニ追跡記錄シテ研究スルコトハ不可能デアル。

昭和十年七月佛國「パリ」市デ開カレタ萬國天文學總會ニ於テハ「グリニツチ時0時ノ時刻ヲ擔當スル地方ニ於テ特ニ太陽觀測ヲ熱心ニ實施セラレムコトヲ希望ス」ト云フ重大ナル決議ガ行ハレタノハ學界衆知ノ事實デアルガ是レ全ク東亞方面殊ニ我が日本ニ於ケル太陽觀測ノ重要ナル責任ヲ世界的ニ期待サレテ居ルコトヲ意味スルモノデアル隨テ右ノ如キ國際の見地ヨリノ決議ヲ我が日本ノ面前ニ突キ付ケラレテ尙ホ無關心ノ態度ヲ吾人ガ採ルナラバ學術研究上我が國民ノ不熱心ト無責任トヲ現ハスモノト言ハナケレバナラナイ。

右ノ事情ヨリ見テ(一)國內ニ於ケル學術進步ノ爲(二)災害防止ノ根本的研究上

カラ(三)國際的學術研究ノ責任上カラ我が國ノ適當ナル地域ニ太陽ノ專門的觀測所ノ設立サレシコトヲ要望スルモノデアル、是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

(下略)

昭和十三年三月九日提出

建議第二一六號

國立黃道光觀測所設置ニ關スル建議案

右成規ニ據リ提出候也

昭和十三年三月九日

提 出 者 服部岩吉, 作田高太郎

賛 成 者

松 山 常次郎	庄 司 一 郎	木 本 圭一郎	小 串 清 一	齋 藤 隆 夫
上 田 孝 吉	田 代 正 治	池 田 秀 雄	江 羅 直三郎	眞 鍋 儀 十
川 崎 末五郎	川崎巳之太郎	林 平 馬	木 原 七 郎	小笠原八十美
村 上 紋四郎	村 瀬 武 男	小 平 重 吉	重 松 重 治	長 野 綱 良
田 村 秀 吉	古 屋 慶 隆	一 松 定 吉	小 山 谷 藏	池 本 甚四郎
眞 鍋 勝	大 野 一 造	塚 本 三	松 田 喜三郎	石 井 德久次
高 田 耘 平	松 尾 孝 之	小見山七十五郎	吉 植 庄 亮	鹽 川 正 藏
羽 田 武嗣郎	増 永 元 也	馬 岡 次 郎	丸 山 辨三郎	江 原 三 郎

國立黃道光觀測所設置ニ關スル建議

黃道光ノ研究ハ學術上極メテ大切ナル事項ニ屬シ之カ觀測事業ハ斯學發達ノ基礎的要件タリ政府ハ速ニ國立黃道光觀測所ヲ設置シ以テ學界ノ要求ニ應セラレムコトヲ望ム

右建議ス

國立黃道光觀測所設置ニ關スル建議案理由書

黃道光ハ毎夕ノ西天及毎曉ノ東天ニ現ハルル形狀巨大ナル光芒ニシテ約半世紀以前ヨリ先ツ世界ノ天文學者ノ注意スル所トナリ其ノ後氣象學者乃至一般ノ地球物理學者モ亦漸次之ニ關心ヲ増シツツアル天然現象ナリ此ノ黃道光ノ光輝ハ銀河ニ數倍スル明るサニ達スルモノナレトモ其ノ形態ハ極メテ不明瞭ナル爲之カ果シテ我等ヨリ見テ近キモノナルカ或ハ遠キモノナルカ此ノ距離ノ測定頗ル